※令和５年度以降入学生用

学校番号	216

令和５年度　情報科

教科	情報科	科目	情報Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「情報Ⅰ」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- コンピュータを含むいろいろなコミュニケーション手段を用いて、情報とは何かについて考え、理解を深めましょう。
- 実践的・体験的な学習を通して、コンピュータやネットワークについて学び、良い使い方とは何かを考えましょう。また、問題解決をする際の手法として「プログラミング」的な考え方を身に着けましょう。
- グループワーク・発表など様々なコミュニケーション手段を通じて、コミュニケーションとは何か、理解を深め、その活用について考えてみましょう。
- コミュニケーションについて、ワークショップや演習等を通して考え、友だちとの交流の中で多面的な考え方があることを理解し、自分自身の考え方をしっかりと持ちましょう。
- コンピュータ、スマートフォン、SNS などの様々な問題（情報モラル）について、グループワークをする中でしっかりとした考えを持って、それらの問題に対処できるようにしましょう。

２　学習の到達目標

1　情報活用の実践力を身につけ、情報機器の使い方に関する知識や技能の習得はもとより、「情報」そのものに関する内容(情報の収集・判断・創造・発信)が理解できる。
2　情報を科学的に理解し、さらに情報を受信・発信するときの責任を理解した上で、ネットワークを利用したコミュニケーションを含め、情報社会に積極的に参画することができる。
3　日常のさまざまな問題を解決するために、コンピュータを含む情報機器等を活用して情報の収集や整理を行うことができる。
4　プロジェクト学習、グループワークの中で、コンピュータを含む情報機器等を活用した高度なコミュニケーションをとることができる。
5　プログラミング的な考え方とは何か？問題解決とは何かを理解し、問題解決の場面で実践することが出来る。

※令和５年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・コンピュータを含めた情報と情報技術を適切に活用するための知識とそれを活用して問題を発見・解決するための方法について理解している。 ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響、および、情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任について理解している。 ・コンピュータを含めた情報と情報技術を活用するための基礎・基本的な技能を身に付け、目的に応じて、情報および情報技術を適切に扱うことができる。	・さまざまな事象を情報収集し、個々の視点だけでなく、それぞれ関係性から見える視点を捉えることができる。 ・問題の発見・解決に向けて情報収集し、情報技術を適切かつ効果的に活用することができる。 ・複数の情報の関係性を理解し、それらを統合的に整理して、新たな考えなどを見いだす事ができる。 ・問題解決の場面の場面で、プログラミング的思考を用いて、問題解決をすることが出来る。また、解決の方法を表現することが出来る。	・情報を多角的・多面的にとらえ、本質的な部分を見極めていこうとしている。 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとしている。 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動している。 ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとしている。 ・問題解決の場面で、フローチャート等を用いて、良い問題解決の方法を導き出そうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和５年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期・中間考査まで	プロジェクト学習A（AIを作ろう）	・基本的なパソコンの操作技術 ・ネットワークの概念 ・フローチャート ・プログラミング的思考 ・カードゲームの AI 設計、開発 ・プレゼンテーション(グループ発表)	a: AI の仕組みやフローチャートの概念を理解し、ビジュアルプログラミングソフトの使用方法が分かる。また、グループワークによって、コミュニケーションを理解し、グループによる問題解決や情報交換をすすめることができる。 b:既存の問題の解決手順をフローチャートで表現することが出来、フローチャートを元にビジュアルプログラミングを用いて問題の解決方法を検討することが出来る。 c:「自動化」「プログラミング」に興味を持ち、それらの学習に積極的に取り組もうとしている。	各授業の振り返り 単元の振り返り 作品 発表	単元の振り返り 作品 発表 グループワーク観察	各授業の振り返り 提出物 振り返り 作品 発表 グループワーク観察
1学期・中間考査以降から2学期・はじめまで	プロジェクト学習B（情報モラル～明日への対策～）	・情報モラル理解のための学習(ディスカッション) ・情報モラル事例の分析・検証 ・事例検討のためのケーススタディ ・フォトランゲージによる情報受信・情報発信の分析・検討 ・メディアリテラシーの理解と分析・検討	a: 問題解決のためのさまざまな方法を考え、目的に応じて、適切な解決方法を選択することができる。また、グループワークによって、コミュニケーションを理解し、グループによる問題解決や情報交換をすすめることができる。 b: 各事例においてその内容をしっかりと掌握し、それらを適切に活用する手段を検討することができる。 c: 情報モラルとは何かを理解し、各事例において検討・分析をし、その問題点について考えることができる。	各授業の振り返り 単元の振り返り 発表	単元の振り返り 発表 グループワーク観察	各授業の振り返り 単元の振り返り 提出物 発表 グループワーク観察

作品・発表の評価には、ルーブリックを用いる。

※令和５年度以降入学生用

2学期・8月から10月はじめまで	プロジェクト学習M（未来予想図～シミュレーション講習～）	・インターネットの利用と検索システムの理解 ・表計算ソフトの概念の理解とその操作技術 ・シミュレーションの概念の理解 ・レポートの作成方法とその理解	a：グループワークによって、コミュニケーションを理解し、グループによる問題解決や情報交換をすすめることができる。また、レポート作成の意味を理解し、公開するためのレポートを作成することができる。 b：表計算ソフトの基本的な仕組みに興味をもち、さらにシミュレーションについても興味を持ち、それらの学習に積極的に取り組もうとしている。 c：インターネットの基本的な仕組みに興味をもち、それらの学習に積極的に取り組もうとしている。	各授業の振り返り 単元の振り返り作品	単元の振り返り作品 グループワーク観察	各授業の振り返り 単元の振り返り提出物作品 グループワーク観察
2学期・10月中旬から期末考査前まで	プロジェクト学習C（これぞ私のおすすめ）	・メールソフトの利用とマナー ・プレゼンテーションソフトの基本概念の理解と操作技術 ・コミュニケーションにおける思考の展開方法 ・プレゼンテーションの基本概念の理解とその技法 ・プレゼンテーション	a：グループワークによって、コミュニケーションを理解し、グループによる問題解決や情報交換をすすめることができる。また、作品制作・発表を通して、さまざまなコミュニケーションのあり方を理解することができる。 b：情報モラルとは何かを理解し、検討・分析をし、その問題点について考え、その手段を検討することができる。 c：プレゼンテーションソフトの基本的な仕組みに興味をもち、それらの学習に積極的に取り組もうとしている。	各授業の振り返り 単元の振り返り作品 発表	単元の振り返り作品 発表 グループワーク観察	各授業の振り返り 単元の振り返り提出物作品 発表 グループワーク観察

作品・発表の評価には、ルーブリックを用いる。

作品・発表の評価には、ルーブリックを用いる。

※令和５年度以降入学生用

2学期・期末考査前から3学期まで	プロジェクト学習D（News Triangle～ニュース番組作成～）	・プレゼンテーションソフトの応用とその操作技術 ・情報の収集、判断、創造、発信の理解と総合的な活用 ・多角的な視点の理解をその総合的な活用 ・より高度なプレゼンテーション技術 ・プレゼンテーション（グループ発表）	a: グループワークによって、コミュニケーションを理解し、グループによる問題解決や情報交換をすすめることができる。また、作品制作・発表を通して、さまざまなコミュニケーションのあり方を理解することができる。 b: 情報モラルとは何かを理解し、検討・分析をし、その問題点について考え、その手段を検討することができる。 c: プレゼンテーションソフトの高度な仕組みに興味をもち、それらの学習に積極的に取り組もうとしている。	各授業の振り返り 振り返り 作品 発表	振り返り 作品 発表 グループワーク観察	各授業の振り返り 提出物 振り返り 作品 発表 グループワーク観察

作品・発表の評価には、ルーブリックを用いる。

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度